

気仙沼を初訪問

2023-6-5 池田良穂

5月末から6月初頭にかけて、宮城県の気仙沼を訪れる機会がありました。NHKの朝ドラの「おかえり もね」の舞台にもなった地で、ヒロインの生まれ故郷の気仙沼大島への定期航路は架橋によって運航がなくなりましたが、遊覧船が3隻運航されています。

さて今回の訪問は、現地で開催された日本船舶海洋工学会の春季講演会に出席するのが目的でした。学术论文は、退職後はほとんど書いていないので、講演会に論文発表のために出席する機会はほとんどなくなっていたのですが、船舶海洋技術賞(旧吉識賞)を頂けることになり、授賞式に参列することになりました。

前日に、気仙沼に入り、気仙沼港と気仙沼大島を回って港と船を見ることができました。気仙沼は一大漁港で、岸壁には漁船がたくさん繋がっていました。船籍を見て回ってみると、気仙沼船籍は一部で、北海道から、四国、九州、北陸まで、全国各地からたくさんの漁船がやってきていることが分かりました。沖合では黒潮と親潮がぶつかり、低層の栄養分が巻き上がるために、かつお、まぐろなどをはじめとして様々な魚が捕れるとのことでした。

津波で崩壊した港の岸壁や施設も復旧しており、各船ともに停泊中は陸上からの電源をとっており、船の煙突からの煙はでていませんでした。船からの大気汚染を解消した新しい漁港とも言えそうです。

港の入口近くには、津波の被害を受けた小型造船所が共同で設立した「みらい造船」があり、日本では3番目のシンクロリフト式の水中エレベータで船を上架させて修理ができ、新造もできる近代的な設備が整えられており、たくさんの漁船が修理されていました。学会の講演会で、同社社長の特別講演を聞かせていただきましたが、今後は、漁船だけでなく、洋上風力発電の作業員運搬船CTV(作業員輸送船)等の新しい船の建造、修理も目指したいとのことでした。

気仙沼港の最奥部に2隻の遊覧船が係留されていました。架橋前まで、島との定期船を運航していた大島汽船が運航していますが、この季節は土日だけの運航となっていました。もう一隻の遊覧船は、大島の浦の浜港に繋がれており、こちらも土日だけの運航でした。浦の浜の案内所には、「津波をのりこえた連絡船ひまわり」の掲示がありました。また架橋前に大島と本土を結んでいたカーフェリー「ドリームおおしま」も、新しく改修された浦の浜の岸壁に停泊していました。今後、同船を使用する計画があるのでしょうか。今後の行方が少し心配になりました。

大阪に帰る飛行機が仙台空港発の夕刻の便だったので、クルーズ誘致に積極的な隣町大船渡の港を訪れました。この日は天気が一転して土砂降りの雨の中でした。大船渡は、気仙沼から車で40分ほど北上したところにあり、気仙沼と同様にリアス式の天然の良港で、こちらにも漁港機能はありますが、さらにコンテナ埠頭やばら積み船用埠頭などが整備されており、商業港としての機能が充実しているようでした。同港のホームページによると、今年は、「飛鳥Ⅱ」の2回の寄港が予定

されているとのこと。

気仙沼の遊覧船



ファンタジー



グリーンパールⅡ



やしま丸



大島に係留中の「ドリーム大島」

津波をこえた連絡船「ひまわり」

平成二十三年三月十一日

宮城県気仙沼湾に浮かぶ大島を巨大な津波がおそいました。大島と気仙沼港を結ぶ連絡船「ひまわり」の菅原進船長は、「このままでは島が孤立する！」と、連絡船「ひまわり」と共に、津波を乗り切る決心をし、高さ十メートル以上の津波に立ち向かっていきました。

次の日、「ひまわり」は無事、大島に帰ってきました。「ひまわり」の菅原船長は、震災二日後から約八か月間、無償で本土との間を往復し、島民や荷物を運びました。また、船長のもとに集まった義援金をすべて仮設住宅に入居された被災者の皆様へ届けました。その活躍ぶりは、多くのメディアに取り上げられ、小学校六年生の道徳の教科書（東京書籍）にも掲載されました。

子どもたちに大きな夢と希望を与えた連絡船「ひまわり」は、三十年以上の長い航海を終え、今、陸に揚げられ、大島小学校から三百メートル南寄りの地に展示されています。

臨時船「ひまわり」を保存する会

住所 気仙沼市中山五ノ十
TEL (二八) 三一七六



写真提供：佼成出版社

大島の浦の浜港のターミナルに掲示されていた「ひまわり」の説明書。



写真提供、読売新聞 鈴木毅彦様

長きにわたって大島の人々の命を支えてきた「ひまわり」

「ひまわり」の写真

気仙沼港の漁船群





気仙沼港には 3 ヶ所ほどの漁船だまりがあり、たくさんの漁船が繋がれていました。全国から三陸沖の漁場を目指して集まってくるようでした。



みらい造船で修理中の漁船です。水平の船台の上に乗る船を前後左右に動かしてたくさんの船の修理ができる施設が導入されていました。



ホテルの窓から見えた旋網漁船団の出港風景です。①旋網漁船が^{まきあみ}出港し、2 隻のレッコボートが追いかける
②レッコボートが追いつき、旋網漁船の船尾に接続 ③漁場から漁獲物を運ぶ運搬船が続いて出港していきま
した。



大型貨物船の姿も見える大船渡港です。